

令和元年度地震・津波防災訓練 (内閣府・北海道広尾町)

実施報告書 (概要版)

北海道広尾町について

広尾町は、北海道十勝管内の最南端に位置し、豊かな自然を生かした漁業を中心に農林漁業を基幹産業として発展してきました。また、首都圏と結ぶ海の最短距離に位置する重要港湾「十勝港」は、十勝の海上輸送の拠点港として今後の発展が期待されています。

広尾町では、地域防災計画において、町に多大な被害を及ぼすと考えられる地震として、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震を挙げており、平成15年9月の十勝沖地震、平成23年3月の東日本大震災など過去に甚大な津波被害が発生していることから、町内全戸への防災無線受信機配備や避難路、避難階段の設置などの防災対策事業を実施しているほか、毎年沿岸地域を対象とした地震・津波避難訓練を実施し、防災体制の強化と地域住民の防災意識高揚と知識の普及を図っています。



出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：「令和元年11月7日午前9時30分に、十勝沖を震源とするマグニチュード9.1の地震が発生し、広尾町では震度7を観測。町の沿岸部（十勝港）では36分後に約29.4m（最大津波高）の到達が予想される。」との想定で広尾町は直ちに沿岸部の住民に対し津波からの避難を呼びかけました。
- 実施日時：令和元年11月 7日（木）09:30～13:00
- 主 催：内閣府、北海道、広尾町
- 参加者数：約350名
- 参加機関：釧路地方気象台、釧路地方気象台帯広測候所、広尾警察署、広尾海上保安署、とかち広域消防局広尾消防署、広尾町消防団、広尾町赤十字奉仕団、町内自主防災会、芽室町、北海道立広尾高等学校、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、株式会社彩生

訓練の評価

訓練実施間は、天候に恵まれ、地域住民、町内所在企業、保育園、関係機関等が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後の地域住民へのアンケート結果から

- 避難する際には、ヘルメットや防寒着の準備が必要だと感じた。
- 防災士の資格は取得したが、それ以来、防災の役に立てることをしていないので、定期的に訓練を出来たらいいと思った。
- 避難所開設訓練において、ダンボールベッドの組立（備蓄資材の取り扱い）などを实际的に体験でき良かった。

という評価の一方で、次のような意見も見られた。

- 港湾部からの丘へ上がる階段について、もっとゆるやかに改修出来れば避難し易い。
- 屋外の防災無線の音量が小さくほとんど聞き取れない。
- 避難場所までの避難経路に居住地より低い所がある。

広尾町職員の所見からは、

- 避難指示の発令から速やかに避難をする住民の方が大変多く、地域全体として、防災への関心とその取り組みに対する理解があると感じた。
- 今回、避難所運営訓練に参加し、開設にあたっての役割分担や指示系統の重要性及び必要物品について考えるよい機会となった。有事の際に活かしたいと思う。
- 避難場所では避難指示の無線がほとんど聞こえなかった。消防のサイレンが聞こえてきたのも無線放送終了から4～5分くらいしてからだった。 など、住民の防災意識の高さを訓練の成果を評価する意見とともに、防災行政無線（放送設備）の不備に関する指摘など、今後の改善に資する意見も見られる有意義な訓練となった。

訓練内容

10月15日 14:00～16:00 訓練事前説明会及び防災講習会

自主防災組織のリーダーを対象に避難所開設・運営訓練の事前説明会及び地区防災計画、災害・避難カードの作成に関する防災講習会を実施し、自助・共助による避難行動等に関する意識を醸成した。

▼避難所訓練の事前説明



▼防災講習会



▼備蓄資材の取扱い実習



11月7日 09:30～10:00 シェイクアウト訓練及び津波避難訓練

広尾町全域を対象に各々の場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した後、防災行政無線による津波避難の呼びかけに応じ、保育園児及び住民等は、緊急避難場所への避難を実施した。

▼シェイクアウト訓練（ひろお保育園）



▼旧広尾小学校への避難



▼緊急避難場所での安否確認



11月7日 10:30～12:10 防災講話及び避難所開設訓練、支援物資受入れ訓練

津波避難訓練終了後、青少年研修センターに訓練会場を移して、気象台による防災講話及び避難所開設訓練、支援物資の受入れ訓練を実施し、住民主体による避難所運営意識の高揚を図ることができた。

▼気象台による防災講話



▼地域住民主体による避難所の開設



▼支援物資の受け入れ



11月7日 12:10～13:00 訓練の講評及び炊き出しの試食

避難所開設訓練終了後、町長等による訓練の講評を行った。

早朝から実施していた広尾町赤十字奉仕団による炊き出し訓練により調理したシーフードカレーの試食を行い訓練を終了した。

▼町長の講評



▼内閣府担当の挨拶



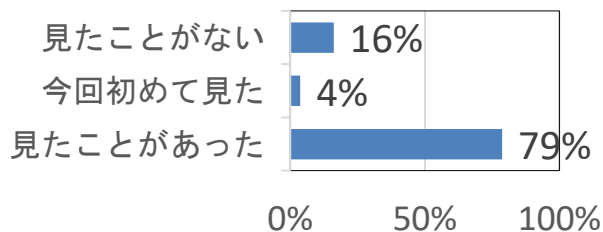
▼炊き出しの試食



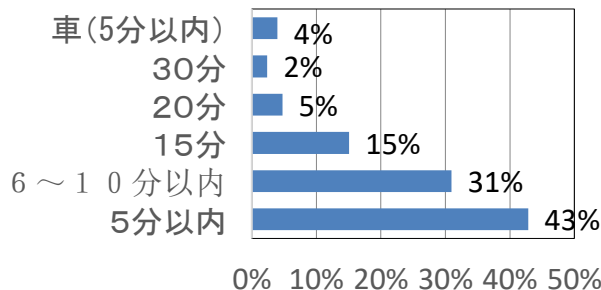
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（アンケート回収数：136枚）

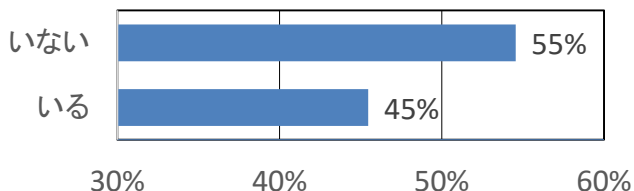
広尾町が作成したハザードマップを見ることがありますか。（回答数：134）



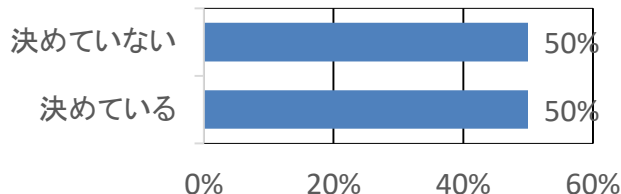
避難先には何分かかりましたか。（回答数：126）



あなたの周辺には、避難行動要支援者がいますか。（回答数：110）



災害時に一緒にいない家族との連絡手段を決めていますか。（回答数：116）



【自由意見】

（訓練全般に関する事項）

- ヘルメットの準備や防寒着の必要を感じたので準備しようと思った。参加したからこそ実感した。
- 参加人数が少ない。女性が少ない。
- 防災士の資格を取得したが、それ以来何も役に立つ事をしていないので、何か自分に出来る事があれば。

（津波避難訓練に関する意見）

- 高齢者をかかえた生活であるのでスローな避難がやむを得ない。アドバイスなどあれば歓迎ですし、もっと安心を感じられる訓練を期待する。
- 避難場所までの避難経路に居住地より低地の所がある。
- 港湾部からの丘へ上がる階段について、もっとゆるやかに改修出来れば避難しやすくなりうれしいです。

（防災行政無線に関する意見）

- 屋外の防災無線の音量が小さくほとんど聞き取れなかった。
- 港内の防災無線が小さく感じた。

（避難所訓練に関する事項）

- ダンボールベッド組立、リアルに体験できて良かったです。

令和元年度地震・津波防災訓練 (内閣府・西宮市)

実施報告書 (概要版)

兵庫県西宮市について

西宮市（にしのみやし）は、兵庫県の南東部に位置する、人口約 48 万人、総面積約 100k m²の市である。大阪湾に面した沿岸部は市街地が広がっている。

兵庫県の想定では、南海トラフ地震により、最大震度 6 弱、津波到達は発災 112 分後（水面が 1m 上昇）、最大津波高は 3.7m、市内の浸水面積は 911ha と予測されている。市では、防災体制の強化をはじめ、津波避難ビルの指定、防災マップの作成など様々な防災対策に取り組んでいる。

今回の訓練では、地区内の津波避難ビルへの避難に加え、住民どうしが協力した避難生活の体験企画を盛り込み、発災時の住民個々の一連の行動を実践・検証した。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：令和元年11月17日（日）午前9時、南海トラフを震源とするM9.0の地震が発生し、西宮市南部では震度6弱の揺れを観測した。午前9時2分、気象庁は兵庫県瀬戸内海沿岸に大津波警報を発表し、西宮市は鳴尾御影線より南側の地区に対して避難指示（緊急）を発令した。
- 実施日時：令和元年11月17日（日）9時00分～12時00分
- 実施地区：西宮市立南甲子園小学校区及び周辺
- 主催：西宮市、内閣府
- 参加者数：約400名
- 参加機関：西宮市防災危機管理局、西宮市上下水道局、西宮市消防局、西宮市消防団（鳴尾地区）、日本防災士会、神戸女学院大学、コープこうべ、甲子園警察

訓練の評価

訓練当日は天候にも恵まれ、地域住民や参加機関等合わせて約400名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や津波避難訓練の参考となるよう「得られた成果と対策案」を整理した。

【得られた成果】

- 実施地区内の津波避難場所の多くは津波避難ビルであり、民間施設も多い。地区住民にとっては、最寄りの津波避難ビルを再確認できたとともに、管理者等にとっては、津波避難の際の経路や誘導方法について検証できる有効な機会となった。
- 避難所開設・運営訓練では、資機材の使用体験を通じて、住民らが協力して相互に助け合う意義を有効に伝達できた。
- 災害食の紹介は、日頃の食材を用いた調理実演も行われ、災害時の食について啓発できた。

【今後の対策案】

- 津波避難ビルは、今回の訓練での実態を踏まえて、ビルの管理形態等の特性を考慮しながら、避難者の誘導方法や収容場所等の運用を検討していく必要がある。
- 訓練で津波避難ビルを使用する際、施設管理上、事前調整が必要だが、行政だけでなく自主防災組織等の地域団体とも役割分担するなど、調整過程を通じて地域内の多様な主体どうしの連携強化を進める必要がある。

訓練内容

事前説明会（令和元年11月2日）

参加予定者に対して、訓練当日の内容の事前学習とともに、地図ワークショップを実施した。

自宅からの避難経路や、小学校区内の状況を話し合い、津波避難の際の経路や助け合いの必要の気づきを得た。

▼事前学習



▼ワークショップ



9:00～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練

訓練開始とともに、参加者は自宅等でのシェイクアウト訓練を行い、その後、最寄りの津波避難場所（津波避難ビル）への避難訓練を行った。津波避難ビルの様々な管理形態に配慮し、上階への避難のほか、避難階段の確認など可能な形で実施した。

消防団は、車両による広報活動により避難を呼びかけた。

▼津波避難訓練



▼消防団の避難広報活動



9:50～ 自由参加型訓練（西宮市立南甲子園小学校）

参加者はメイン会場となる西宮市立南甲子園小学校に集合し、災害時の「自助」と「共助」の重要性や、防災の知識、技術を学習する場として、自由参加型訓練を実施した。

避難者の受付や、段ボールベッドの組み立て体験、炊き出しや災害時の調理方法の紹介をはじめ、地元の大学生らによる子ども向けスタンプラリーのほか、技術の紹介として、応急給水技術の紹介、消防団による放水、消防車両・パトカーの展示を実施した。

▼避難所受付



▼段ボールベッドの組み立て体験



▼子ども向けスタンプラリー



▼応急給水技術の紹介

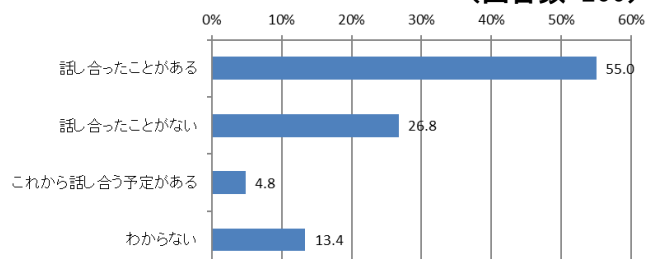


アンケート結果

参加した市民に、防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：人）

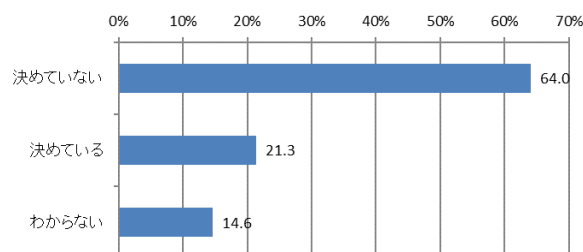
あなたの地域（区）で「災害時の避難について」話し合ったことはありますか。

（回答数=269）



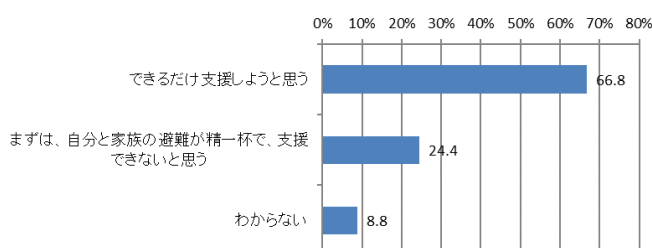
災害が発生した、または発生しそうなとき、ご近所での助け合いの方法を決めていますか。

（回答数=253）



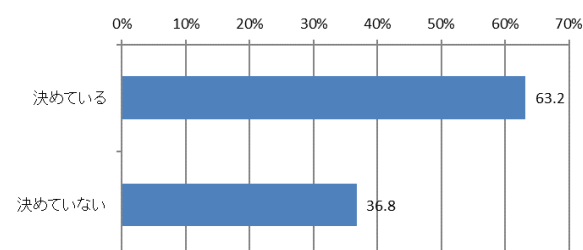
あなたが避難する際に、可能ならば「避難行動要支援者」の避難を支援しようと思いますか。

（回答数=250）



災害時に、家族同士どのように連絡を取るか、家族の中で決めていますか。

（回答数=250）



自由回答欄

- （炊き出し訓練を通じて）備蓄がよくわかりました。
- とても役だった。備蓄すべきグッズはすぐに行きます。
- 今回のような訓練は何度も参加することが良い。
- 初めて参加しました。災害が多発している中、日頃の備えの必要性が高いと思いました。
- 色々知らないことを学びました。これから参考にしていきたいです。
- 子どもが参加しても理解できる内容が良かったです。
- 段ボールベッドの組み立ては、簡単にできることがわかり、良かったです。
- （消防による煙体験は）通路の中を通過して、煙の恐ろしさを学びました。
- （自由参加型訓練は）各コーナーをまわることができ、良かったです。



令和元年度地震・津波防災訓練 (内閣府・印南町)

実施報告書 (概要版)

和歌山県印南町について

印南町（いなみちょう）は、和歌山県のほぼ中央部に位置する、人口約 8,200 人、総面積 113.62k m²の町である。

和歌山県の調査では、南海トラフ地震により、発災 11 分で津波高 1m、最大津波高 15m などと予測されている。

印南町では、津波避難訓練を毎年継続しているほか、津波避難マップの作成や防災行政無線および防災ラジオの併用による情報伝達の迅速化を図るなど、様々な防災対策に取り組んでいる。

今回の訓練では、津波避難訓練に加え、町でノウハウがなかった避難所開設等を関係機関と連携しながら実施することで、日頃から避難後の生活までを広く見据えた防災意識の啓発を目的とした。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：11月4日（月）午前8時10分に、震度6強の地震が発生。沿岸地域には、20分以内に最大15mの津波の到達が予想される。午前8時12分、気象庁は大津波警報を発表するとともに、印南町は防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけ、沿岸部の町民らが避難を開始した。
- 実施日時：令和元年11月4日（月）7：45～15：30
- 実施地区：印南地域、切目地域
- 主催：印南町、内閣府
- 参加者数：約4,250名（延べ人数）
- 参加機関：印南町民、自主防災会連絡協議会、社会福祉協議会、日高広域消防本部、御坊警察署、陸上自衛隊第37普通科連隊、自衛隊和歌山地方協力本部 御坊地域事務所、民生児童委員協議会、赤十字奉仕団、消防団、特別養護老人ホーム カルフル・ド・ルポ印南、福祉事業団 作業所 陽、三和デイサービス印南店、認定こども園いなみこども園、印南小学校、印南中学校、切目小学校、切目中学校、河田恵昭氏（関西大学教授、人と防災未来センター所長）、城下英行氏（関西大学准教授）、照本清峰氏（関西学院大学）

訓練の評価

訓練当日は天候にも恵まれ、地域住民や参加機関等合わせて約4,250名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や津波避難訓練の参考となるよう「得られた成果と対策案」を整理した。

【得られた成果】

- 津波避難訓練は継続的に取り組まれており、迅速な行動ができていた。
- 避難所開設訓練では、児童・生徒らはじめ町民らも積極的に取り組み、自助・共助の重要性を体感することができた。
- 専門家の講演会は、印南町でこれまで発生した地震被害や南海トラフ地震の際に印南町で起こりうる事態等が解説され、参加者は自分ごととして習得できた。

【今後の対策案】

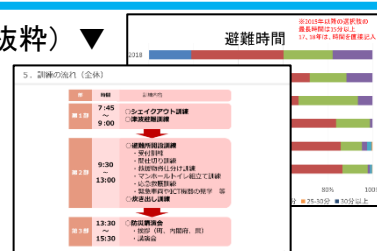
- 津波避難訓練は、避難者個々の非常持ち出し品の携行や、避難経路上で起こりうる被害、要配慮者への助け合いも考慮しながら、実効化していく必要がある。
- 避難所開設訓練は、資機材の技術習得機会として継続していくことが望ましい。

訓練内容

事前説明会（令和元年 10 月 21 日）

訓練予定内容の説明のほか、城下英行氏より、過去の印南町での訓練での参加者の津波避難行動特性の研究結果を紹介し、訓練に向けて意識を高めた。

説明資料（抜粋）▼



8:10～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練

緊急地震速報の発表後、参加者は、各自の居場所でシェイクアウト訓練を実施した。その後、最寄りの高台等への津波避難訓練を行った。

消防団は、車両による避難広報活動を実施した。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



9:30～ 避難所開設訓練

全町民を対象に、印南町体育センターをメイン会場として、災害時の「自助」と「共助」の重要性を学習する避難所開設訓練を実施した。

間仕切り組み立て訓練や、救援物資仕分け訓練、応急救護訓練、マンホールトイレ組立て訓練等では、参加者どうしが協働作業を行ったほか、防災ICT機器や車両展示、炊き出し訓練等も実施した。

▼間仕切り組立て訓練



▼炊き出し訓練



13:30～ 防災講演会

河田恵昭氏による「避難のために津波警報は必要なのか？～災害文化を育てる～」と題した防災講演会を開催し、町内の中学生を含む約 650 名が熱心に聴講した。

▼防災講演会



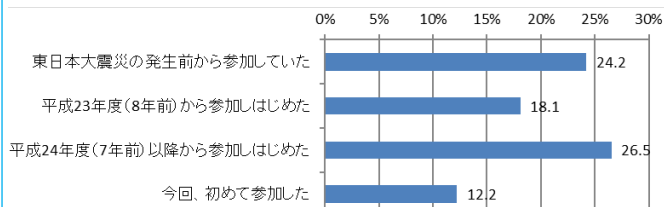
令和元年度地震・津波防災訓練（内閣府・印南町）

アンケート結果

参加した町民に、防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：人）

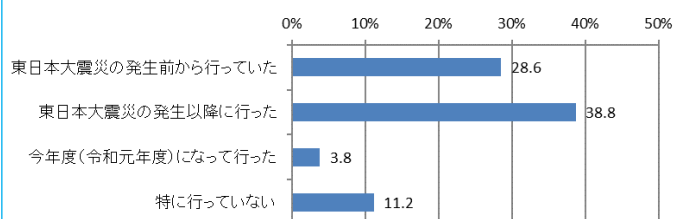
いつから地震・津波避難訓練に参加されていますか。

（回答数=318）



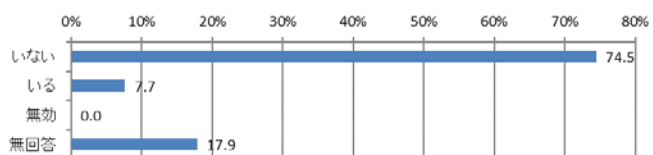
地震・津波に対して自分や自分の家族が避難する場所の確認を行っていますか。

（回答数=323）



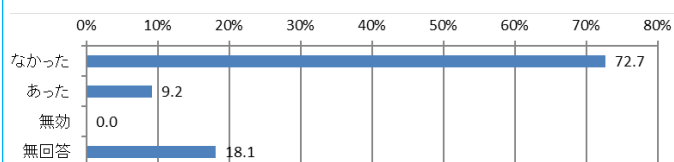
ご自身を含め、家族の中に避難が困難な方がいますか。

（回答数=392）



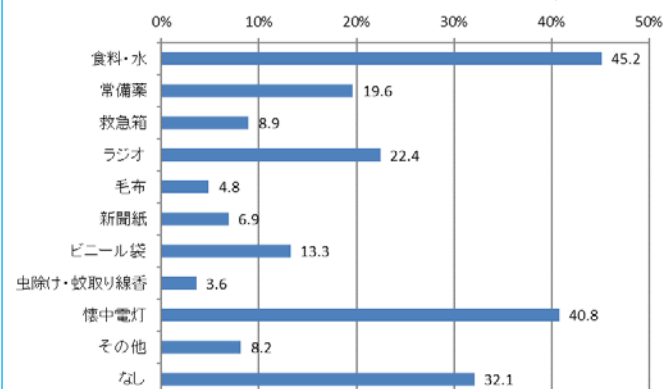
避難途中に危険な場所がありましたか。

（回答数=392）



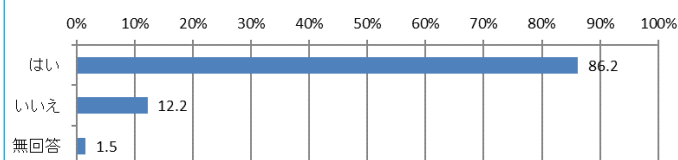
いざという時には持参するために準備をしているものはありますか（複数回答）。

（回答数=392）



今回の訓練に関する放送（地震発生、津波警報発令等）は、良く聞こえましたか。

（回答数=392）



令和元年度地震・津波防災訓練 (内閣府・愛媛県西予市)

実施報告書 (概要版)

愛媛県西予市について

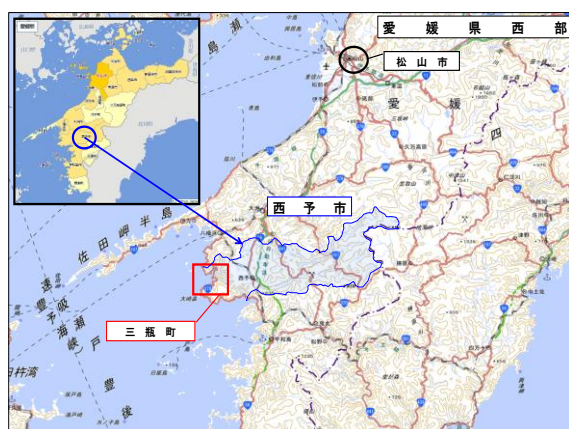
西予市は、愛媛県の南予地方に位置し、海拔0mから1,400mの海・里・山の豊かな自然に恵まれたまちで、平成25年9月に市全域が「四国西予ジオパーク」として認定されています。

平成30年7月豪雨では、かつてないほどの河川氾濫や土砂災害が発生し、西予市内では6人（関連死1人を含む）の尊い命が失われました。

西予市では、令和元年度を復興元年と位置付け、3月には「西予市復興まちづくり計画」を策定し、市民の日常を早急に取り戻す復旧作業を迅速に進めるとともに、あらゆる災害から市民の生命と財産を守る、安心・安全なまちづくりに取り組んでいるところです。

また、平成30年度から3年間の予定で、南海トラフ巨大地震による大規模災害の可能性に対処するため、巨大津波被害が想定されている宇和海沿岸5市町

(宇和島市、八幡浜市、西予市、伊方町、愛南町)と愛媛県、愛媛大学、東京大学と共同で、事前復興デザイン研究に取り組んでいます。



出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：「令和元年11月24日、午前8時00分に、南海トラフを震源とする巨大地震が発生し、西予市で最大震度7を記録、1m以上の津波が48分後以降に押し寄せる見込みである。」との想定で、西予市は直ちに住民に対し津波からの避難を呼びかけた。
- 実施日時：令和元年11月24日（日）08：00～12：00
- 主催：内閣府、西予市
- 参加者数：約2,000名
- 参加機関：自主防災会、警察、消防、自衛隊、海上保安庁、西予市消防団、中学校、西予市防災士連絡協議会、社会福祉法人、市医師会、日本赤十字社愛媛県支部、県協定締結企業、愛媛県

訓練の評価

訓練当日は、地域住民、中学生、関係機関を合わせた約2,000名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、地域住民へのアンケートの結果

- なかなか現実的に考えることができず、まだ他人事のような考えがある。しかし、色々な研修会に参加することで、危機意識が高くなっていることも事実。非常時の対応や持出品について、しっかり準備したい。
- という評価の一方で
- 災害はいつ起こるか分からないと思うが、開催時期が悪かった（みかんの収穫等で忙しい）。もっと多くの方の参加があれば良いと思った。
 - 西予市は災害・避難カードを作成しているのか？（カードの事は知っているが、作っていない。）作成しているなら、市民全員に配布してほしい。
 - プライバシー保護の観点からは難しいが、災害弱者の把握を文書等できちんとできないものか。身近にいる災害弱者、一人で避難できない人が意外に知られていない、地域で共有できていないように思う。
- 等の意見も出された。

西予市職員からは、

- 色々な方にご協力いただき、良い訓練が実施できた。今後もこの繋がりを大事にしていきたい。
- 行動計画に基づいて職員全員の訓練も実施すれば、横断的な連携が出来るとの所見が出された。

中学生は、市防災士連絡協議会指導のもと、地域住民と協同して緊急避難場所へ避難（車椅子、リヤカーによる避難、担架による搬送を体験）する形で避難訓練に参加しており、将来の防災の担い手育成の一助となった。

高齢化が進む地域では、中学生は支援者として大きな存在であり、引き続き自主防災会と中学校等が連携した訓練を実施することが必要である。

令和元年度地震・津波防災訓練（内閣府・愛媛県西予市）

訓練内容

10月30日19:00～20:00 訓練説明会・防災講習会（災害・避難カードの説明等）

西予市三瓶町の各自主防災会長（全19地区）を対象に、訓練説明会・防災講習会（災害・避難カードの作成に係る説明会）を実施した。参加者は終始熱心に受講していた。

▼訓練説明会・防災講習会（災害・避難カードの説明等）



11月24日08:00～ シェイクアウト訓練及び津波避難訓練

西予市三瓶町全域を対象に、住民等が各々の場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した。

中学生による車椅子や担架等による要配慮者支援体験を含めた、津波指定緊急避難場所への避難を実施した。

▼シェイクアウト訓練 三瓶中学校



▼緊急避難場所への避難訓練 三瓶中学校生徒 6区有網代住民



11月24日08:30～11:00 展示訓練等

避難訓練終了後、三瓶中学校、三瓶港等において、関係機関等による展示訓練や住民参加による体験型の訓練等が実施され、自助・共助による被害拡大防止の意識の高揚を図ることができた。

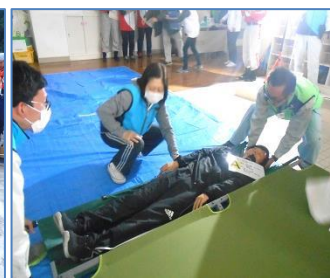
▼三瓶中学校体育館 応急救護講習



▼三瓶港 孤立住民海上輸送訓練



▼旧周木小学校 医療救護所設置訓練



11月24日11:00～11:40 防災講習会、11:50～12:00 物資配給訓練

展示訓練等終了後、三瓶中学校体育館において、内閣府による防災講習会を実施した。講習会終了後、救援物資に見立てた啓発用防災用品を配給する物資配給訓練を実施した。

▼内閣府による防災講習会

最近の災害対策の教訓

地区防災計画の重要性



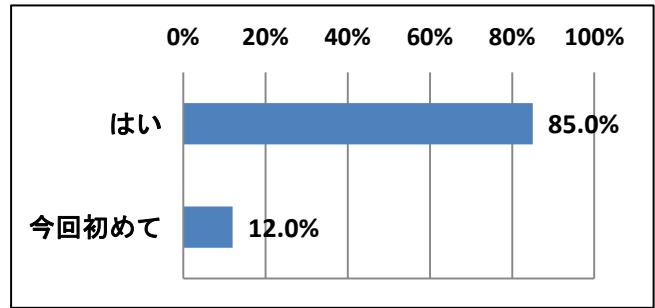
▼物資配給訓練



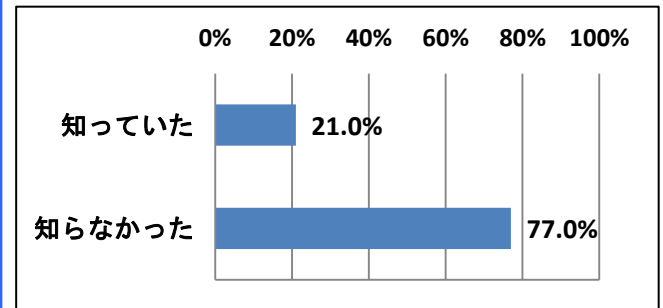
アンケート結果

地域住民の方々等の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（アンケート回収数：180枚）

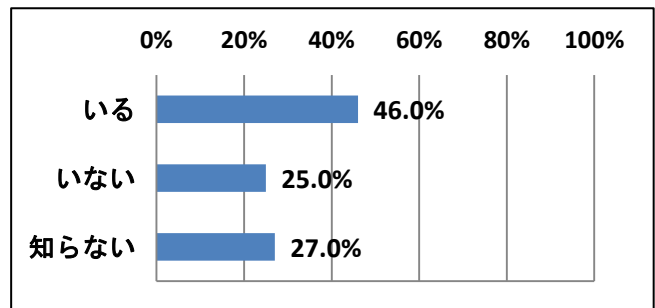
西予市が作成した防災マップなどを見たことがありますか。（回答数＝175）



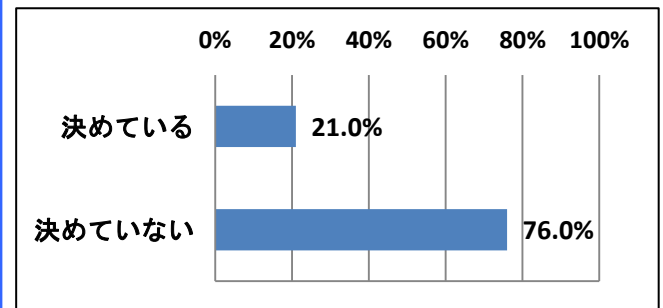
11月5日は「津波防災の日」であることを知っていましたか。（回答数＝175）



あなたの周辺には、避難行動要支援者がいますか。（回答数＝176）



災害時に一緒にいない家族との連絡手段を決めていますか。（回答数＝173）



【自由回答欄】

（良好な点）

- 本人の防災意識を強くする必要性を感じることができた。
- 津波避難訓練を実施してみて、11月5日が「津波防災の日」とは知らなかったし、西予市防災マップやハザードマップ等もきちんと確認したいと思った。

（改善を要する点）

- 住民一人一人の危機意識が高まるような訓練を工夫していきたい。
- 防災訓練を定期的に、そこまで仰々しくなくとも、もっと回数を増やせば、災害時に的確な判断ができるようになると思う。財政的には難しくとも、もっと増やしていくことが、これからの未来のためにできることだと思う。
- 津波の被害にあったことのない人は、どのようなイメージで取り組めばいいかわからないし、津波の本当の怖さを知らないと思うので、本当に津波が来た時に役に立つかはわからない。
- 4区から避難場所の公民館は遠いので、早めに中学校体育館を開放されたい。
- 三瓶南（蔵貫方面）地区は海岸線一本の道路しかなく、災害時の避難路として蔵貫から三瓶地区（安土方面）までのトンネルを整備すべき。
- 自分が住んでいる町は、海や川が近い場所に家が建っているので、津波が来た時は、早く逃げないといけないと思った。

令和元年度地震・津波防災訓練 (内閣府・高知県高知市)

実施報告書 (概要版)

高知県高知市について

高知市は、高知県中央部に位置する県庁所在地で、北部は山地、南部は太平洋に面しており、自然環境に恵まれ、土佐藩の城下町として発展した、人口約32万8千人の都市です。

高知市では、南海トラフ地震が発生した場合、最大震度7の揺れにより多数の家屋倒壊や土砂災害が発生するとともに、地震発生の数分後から6～8m、場所によっては10mを超える大津波が押し寄せることが想定されています。

このため、津波から命を守る対策として、避難路・避難場所の確保、三重防護などのハード対策や市・地区別津波避難計画の整備・点検、津波避難訓練などのソフト対策を推進しています。

特に、防災関係機関が連携した総合防災訓練を毎年実施し、本年度は、災害・避難カード作成講習会のための内閣府ブースを設けるとともに、下知地区及びイオンモール高知において住民参加の津波避難訓練を実施しました。



出典：国土地理院

令和元年度地震・津波防災訓練（内閣府・高知県高知市）

訓練概要

- 訓練想定：「10月27日（日）午前10時15分に南海トラフを震源とするM9.0の大地震が発生し、高知市では最大震度7を観測、大津波警報も発令された。」との想定で実施され、高知市は直ちに住民に対し津波からの避難を呼びかけました。
- 実施日時：令和元年10月27日（日）09:00～14:15
- 実施場所：鏡川緑地及び下知地区・イオンモール高知等
（下知地区・イオンモール高知は、住民参加の避難訓練を実施）
- 主催：高知市、内閣府
- 参加者数：約1,000名
- 参加機関：町内会・自主防災会、イオンモール高知など

訓練の評価

訓練は、内閣府の「地震・津波防災訓練」及び「高知市総合防災訓練」を連携して実施し、町内会・自主防災会などの市民及び防災関係機関等の職員の約1,000名（うち津波避難訓練に約200名）が参加して実施された。

訓練当日は天候にも恵まれ、訓練参加者は終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んでいた。

訓練終了後、各訓練会場で実施したアンケート調査の結果から、

- 日頃の訓練が大事であり、訓練を通じて多くのものを学ばせていただいた。
- 継続して訓練をしていくことが重要で、少しずつ防災についての意識や知識が向上していると思う。
- 災害時は自分達が地域のリーダーとなるが、その心構えや知識を学ぶことができて、勉強になった。などの評価の一方で、
- 年配の人が多いが、実際何かあった時には、要支援者への支援など、もっと若い人の力が必要だ。
- シミュレーションに基づく簡単なゲームなどを取り入れたらどうか。
- 自主防災組織だけではなく、一般の人への周知も必要であり、訓練にもっと多くの人が参加するような仕組みが必要だ。などの意見も出された。

高知市職員からは、

- 今年は若い世代の参加者が多かったが、自主防災会のメンバーが防災紙芝居や防災着ぐるみの活用等、新たなチャレンジをした結果だと思う。
- 今回は地域の自主防災会を中心に声をかけたが、開催場所のイオンモール高知に来る客やテナントの従業員などにも参加を促していくと、より実践に近い形になるのではないかと感じた。などの所見が出された。

今回の訓練や防災講習会（災害・避難カード作成講習会）を通じて、「自らの命を自分で守る重要性」と「日頃から、家族や地域で防災について考えることの大切さ」を学ぶことができ、大変有意義な訓練になった。

令和元年度地震・津波防災訓練（内閣府・高知県高知市）

訓練内容

10月16日 18:30～20:30 防災講習会（災害・避難カード作成講習会）

下知地区自主防災会の訓練最終打合せ会に接続して、役員等に対し「防災講習会」を実施し、カードの重要性・必要性、種類、作成要領等について説明した。

自主防災会役員等



内閣府挨拶



防災講習会



10月27日 09:00～10:30 シェイクアウト訓練及び津波避難訓練

下知地区及びイオンモール高知において、自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、地域住民がその場で安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した。

また、各種津波避難の呼びかけに応じ、津波避難場所である下知コミュニティーセンター及びイオンモール高知への避難を実施し、自主防災会・町内会の役員やイオンモール高知の職員等が避難誘導・避難支援を実施した。

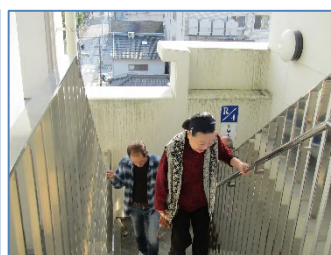
▼下知地区
シェイクアウト訓練



▼下知地区
津波避難訓練



▼下知地区
津波避難訓練



▼イオンモール高知
シェイクアウト訓練



▼イオンモール高知
津波避難訓練



▼イオンモール高知
津波避難訓練



10月27日 09:00～14:15 その他の訓練

「災害・避難カード作成講習会」をブースを設置して実施し、カードの作成体験を通じて防災を考えるきっかけとした。また、訓練の最後の閉会式で、内閣府挨拶及び市長講評等を実施した。

▼鷹匠公園
避難カード作成講習会



▼みどりの広場
閉会式、内閣府挨拶

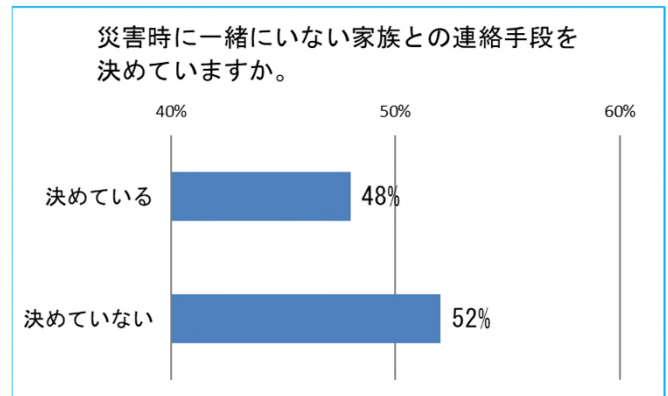
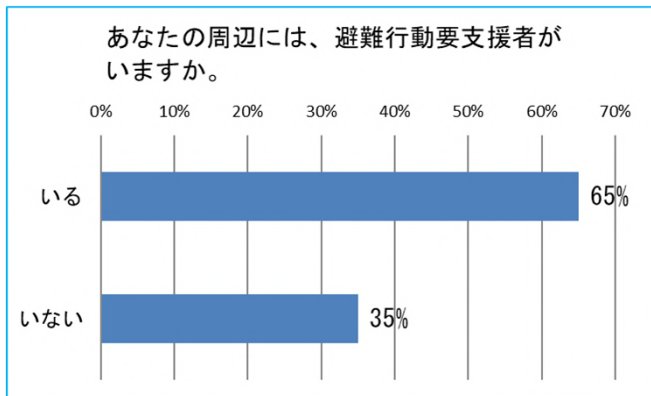
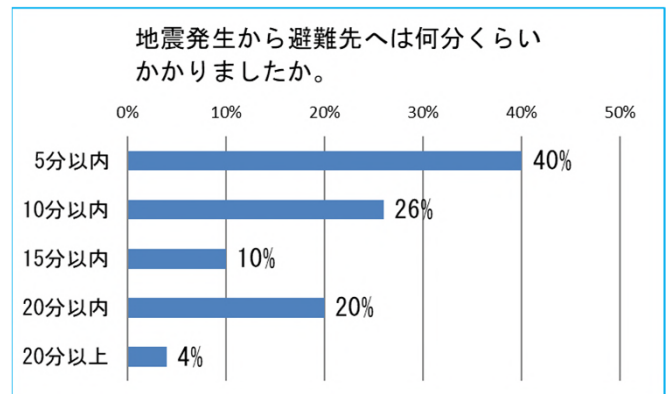
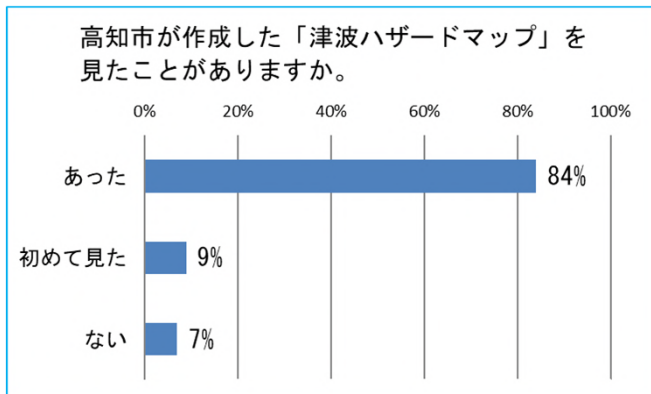


▼みどりの広場
閉会式、市長講評



アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（アンケート回収数：153人）



【自由回答欄】

（良好な点）

- 訓練で色々と事前に体験しておくことが大切なので、度々やって欲しいと思う。
- 前回に引き続いての参加であったが、楽しく訓練できたので、次回も是非参加したいと思う。
- 地震と津波のハザードマップを手に入れることができて良かった。
- 紙芝居の内容がとても良かったので、学校などのいろんな所で披露して欲しいと思う。
- 実際に津波からの避難訓練を体験してみて、避難の仕方が良く分かった。

（改善を要する点）

- 若い人や子供達をもっと参加できるようになればいいと思った。
- 避難する際、持出袋を持参してくる人が少ないと思った。
- 津波避難施設であるイオンモール高知周辺のハザードマップの説明があれば、もっと良かったと思う。
- シェイクアウト訓練の際、正しい姿勢等も見本で見せていただければ良かった。
- 階段で手摺を持つよう指示があったが、手摺を持っていると、余震が来た時の転倒のリスクが減るなど、理由を説明してもらえると更に良かった。

令和元年度地震・津波防災訓練 (内閣府・長崎県島原市)

実施報告書 (概要版)

長崎県島原市について

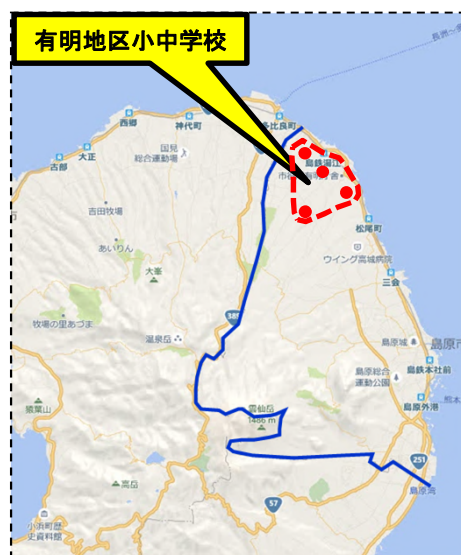
島原市は、長崎県の南東部の島原半島に位置し、半島の中央部にある雲仙普賢岳は噴火を繰り返す活火山として有名です。

最近では1990年（平成2年）11月17日から普賢岳が噴火、翌1991年（平成3年）6月3日には火砕流が発生し43人が亡くなりました。

島原市では、雲仙普賢岳災害から約30年が過ぎ、自主防災組織の活性化を図るために、組織の再編をはじめ、自主防災会長会議の開催、或いは、女性を対象とした研修会の開催などを実施しています。

避難訓練は、毎年、市内を4地区に分けて実施し、特に休日を小中学校の登校日として、家族とともに訓練への参加を促しています。

また、避難行動要支援者の避難・誘導が手付かずの状態だったという反省から、福祉施設利用者の徒歩及び関係機関の車両による避難訓練を実施し、今後の避難行動要支援者の避難対策に生かすこととしています。



出典：国土地理院

令和元年度地震・津波防災訓練（内閣府・長崎県島原市）

訓練概要

- 訓練想定：「令和元年11月10日、午前8時45分に、雲仙地溝南縁東部断層帯・雲仙地溝南縁西部断層帯を震源とする2連動地震が発生し、島原市最大震度6強を記録、最大4mの津波が5分後に押し寄せる見込みである。」との想定で、島原市は直ちに住民に対し津波からの避難を呼びかけました。
- 実施日時：令和元年11月10日（月）08:45～11:30
- 主催：内閣府、島原市
- 参加者数：2,666名
- 参加機関：自治会・自主防災組織、市内小・中学校・保育園・幼稚園、福祉施設、国交省雲仙復興事務所、食生活改善推進員協議会、警察、消防、消防団、自衛隊

訓練の評価

訓練当日は、天候に恵まれ、地域住民1,528名、小・中学生773名、関係機関365名を合わせ2,666名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、地域住民へのアンケートの結果

- 不十分であっても回数を重ねることにより、意識が向上してくると思う。
- 定期的にできたらいいと思った。
- 今回の訓練で、災害・避難カードの記入や実際の避難により、避難所が確認できたのが良かった。

という評価の一方で

- 避難所の収容人数に限りがあると思った。
- 昼間避難と夜間避難の違いがあると思うので、夜間避難訓練も必要
- 高齢者の車椅子移動で、避難に時間がかかった。
- 小さな子連れの避難生活は無理だなと感じた。
- 避難指示の放送が2回で短く周知できないと思う。一次避難所で放送があったが声が割れて内容がわからなかった。

等の意見も出された。

島原市職員からは、

- 今年初めて取り組むシェイクアウト訓練、防災・避難カードを使った避難は、よい取り組みだと思い、これを成功させ本災害時にも生かしてきたいと思った。
 - 今回提供いただいた自治会の「のぼり」を携行して避難して来ており、まとまって訓練された感があり、コミュニティの連携も取れていた。
- との所見が出された。

小中学生は、災害・避難カードを作成・携行して避難訓練に参加しており将来の防災の担い手育成の一助となった。

さらに、福祉施設からの高齢者の避難訓練を実施したが、高齢化が進む地域では、中学生は支援者として大きな存在であり、引き続き自治会や福祉施設と中学校が連携した訓練を実施することが必要である。

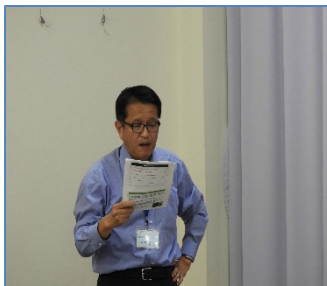
令和元年度地震・津波防災訓練（内閣府・長崎県島原市）

訓練内容

10月15日18:00～20:30 災害・避難カードの作り方・使い方の説明会

有明地区自治会調整会議において、自治会長等に対して、災害・避難カードの作り方・使い方の説明会を実施し、参加者は自治会員への説明の資とするため、熱心に受講していた。

▼地区自治会調整会議における災害・避難カードの説明



11月10日08:45～09:30 シェイクアウト訓練及び津波避難訓練

有明地区全体を対象に、住民が一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した。その後、小中学生・幼稚園児及び住民は、記入した災害・避難カードに基づき、当初一次避難所へ避難、人員点呼後、指定避難所へ避難を実施した。

▼シェイクアウト訓練



▼福祉施設から高齢者の避難



▼災害・避難カードを携行して避難



11月10日09:30～10:30 展示訓練等

避難訓練終了後、各指定避難所において関係機関の展示訓練や住民参加の訓練が実施され、自助・共助による被害拡大防止の意識の高揚を図ることができた。

▼大三東小学校画像送信訓練



▼有明中学校心肺蘇生訓練



▼湯江小学校消火訓練



11月10日08:45～10:30 炊き出し訓練、10:30～11:00 講演会

早朝から自衛隊及び食生活改善推進員協議会による炊き出し訓練を実施した。

展示訓練等終了後、国土交通省及び内閣府による防災に関する国の取組等についての講話を実施した。

▼炊き出し訓練



▼国交省講話



▼内閣府講話

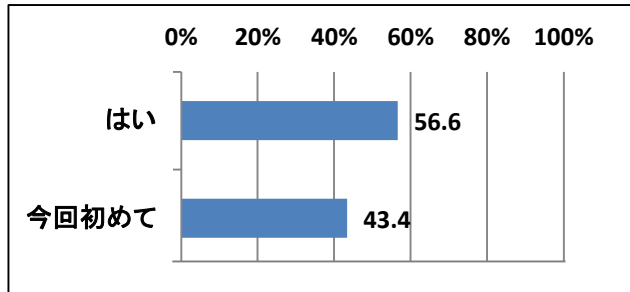


令和元年度地震・津波防災訓練（内閣府・長崎県島原市）

アンケート結果

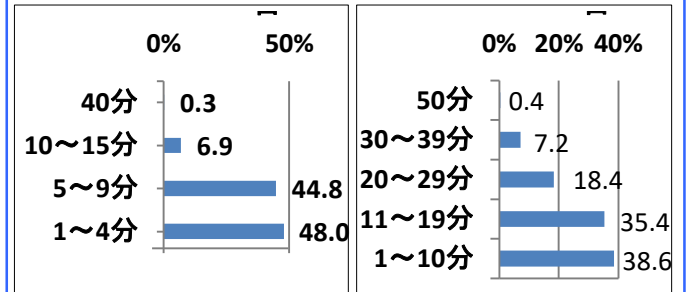
住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（アンケート回収数：253枚）

島原市が作成したハザードマップを見たことがありますか。（回答数＝226）

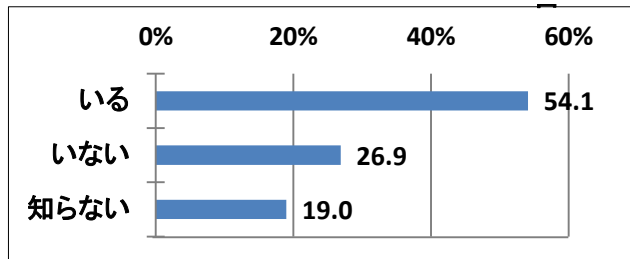


避難先には何分かかりましたか。

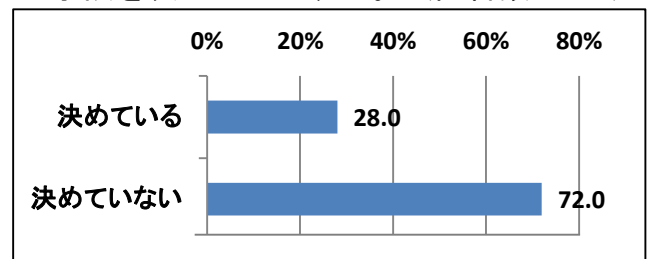
1次避難所まで(回答数＝219) 指定避難所まで(回答数＝223)



あなたの周辺には、避難行動要支援者がいますか。（回答数＝242）



災害時に一緒にいない家族との連絡手段を決めていますか。（回答数＝236）



【自由回答欄】

（良好な点）

- これを機にしっかりと知識を持とうと思った。
- この訓練に参加できてよかった。いい経験をさせてもらい、勉強になった。
- 思っていたより大掛かりな訓練でびっくりした。訓練は役に立つと思う。

（改善を要する点）

- もう少し急いで避難しないといけない。
- 1か所に集まる人が多く、時間がかかった。
- 体育館に避難した人がなくなった例があり、避難所の検討が必要である。
- 防火・水害訓練も必要と思う。
- 避難先は小学校でなく、もっと海拔が高い所がよいと思った
- 途中で坂があり、坂を登る前に津波が来れば危ないと思った。
- 足の不自由な高齢者が2人おり、同時に2人を車椅子で避難させる方法に苦慮
- 災害避難カードのケースを準備してほしい。（小中学生にはケースあり）
- 地区名の張り紙の字が小さくて探しづらい。
- バケツリレーや消火訓練は全員が見られるようにしてほしい。
- 集合場所が遠い。緊迫感がない。

令和元年度地震・津波防災訓練 (内閣府・鹿児島県鹿児島市)

実施報告書 (概要版)

鹿児島県鹿児島市について

鹿児島市は、波静かな錦江湾、悠然とそびえる雄大な活火山桜島という世界に誇れる自然景観を有した風光明媚な都市であり、南九州の中核都市にふさわしい都市機能が集積した人口60万人の県都である。

鹿児島市においては、平成27年8月に桜島の噴火警戒レベルが4に引き上げられ、桜島の一部住民が避難したほか、29年7月には喜入沖で震度5強の地震が発生した。大規模災害とはならなかったものの、令和元年6月末には記録的な大雨となるなど、自然災害の脅威と災害対応の大切さを市民も含め、防災への危機意識が高まっている。桜島の噴火や地震、大雨、台風など、あらゆる災害に強い安心安全なまちづくりをハード・ソフトの両面から推進している。



出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：令和元年11月5日火曜日午前8時27分に、錦江湾直下を震源とした震度7の地震が発生し、鹿児島市沿岸部の広い範囲に、最大3.4mの津波が13分後に到達する想定の下に実施。
鹿児島市は緊急地震速報に続き大津波警報を発令し、住民に避難を呼びかけた。
- 実施日時：令和元年11月5日（火）08:20～12:00
- 主催：内閣府、鹿児島市
- 参加者数：694名
- 参加機関：鹿児島地方気象台、日本赤十字社鹿児島県支部、イオンモール鹿児島、自主防災組織、市民、企業

訓練の評価

訓練当日は、天候に恵まれ、市内全域で全市民を対象にしたシェイクアウト訓練とともに、東開町の事業者38社132名及び津波避難ビルのイオンモール鹿児島従業員303名が津波避難訓練に参加した。また、市役所本庁と谷山支所において災害対策本部運営訓練・情報伝達訓練を実施し、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

さらに、訓練に先立ち10月31日には、かごしま県民交流センターにおいて「地震・津波」市民防災セミナーを開催し、防災講演会、防災マップ作成演習、学生消防団による炊き出し訓練等に259名が参加した。

津波避難訓練実施後、参加事業者へのアンケートの結果

- 津波到達時間13分以内に避難できた事業者は、27事業者（77%）
 - 13分以上避難に要した事業者は、8事業者（23%）
- であることが検証された。

【上記等を踏まえた、訓練結果の総括】

- 被害想定（最大津波3.4m、到達時間13分）に基づき、各事業者を主対象に避難行動にかかる実際の所用時間を検証できたことの意義は大きい。
- 最大津波高と避難行動にかかる所要時間を考慮すると、指定された津波避難ビルに拘ることなく、近隣の高所（建物の3・4階等）への垂直避難についても、各事業者・各人毎に検討する必要がある。

また、シェイクアウト訓練については、

- 市として初めて、市内全域全市民を対象に、地震から身を守る安全確保行動について徹底する訓練を実施できたことの意義は大きい。
- 大型商業（集客）施設で従業員を主対象にしたシェイクアウト訓練においては、従業員自身の安全確保に加えて、来客の方々の安全確保等についてさらなる検討のため、市と市民・事業者等の連携・協力を一層推進する必要がある。

令和元年度地震・津波防災訓練（内閣府・鹿児島県鹿児島市）

訓練内容

10月31日 09:00～13:00「地震・津波」市民防災セミナー

東日本大震災の体験談についての講演、防災マップ作成演習、学生消防団による炊き出し訓練、パネル等展示により、防災基礎知識の理解促進と防災意識の高揚を図った。

▼講演



▼炊き出し訓練



▼パネル等展示



11月5日 08:20～09:00 津波避難訓練

防災行政無線等による津波避難の呼びかけに応じ、津波避難ビルに指定されたイオンモール鹿児島立体駐車場への避難行動について、東開町の各事業所等従業員の行動により検証した。

▼津波避難ビルの立体駐車場への避難行動



▼避難後の安全確認



11月5日 10:00～10:05 シェイクアウト訓練

全市民を対象に、それぞれの所在地において、一斉にシェイクアウト訓練を実施し、地震から身を守る安全確保行動について確認した。

▼オブシアミスミ（食堂）



▼谷山支所



11月5日 11:00～12:00 災害対策本部運営訓練及び情報伝達訓練

市役所に災害対策本部を、谷山支所に谷山支部を設置し、本部会議や情報伝達訓練により、津波発生時の初動対応や災害対応要領及び本部・支部間の連携について確認した。

▼市役所での本部会議



▼谷山支所での支部会議



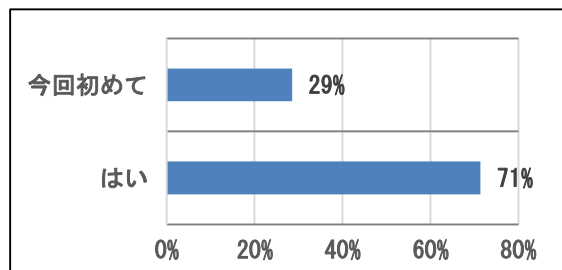
▼災害情報の発信



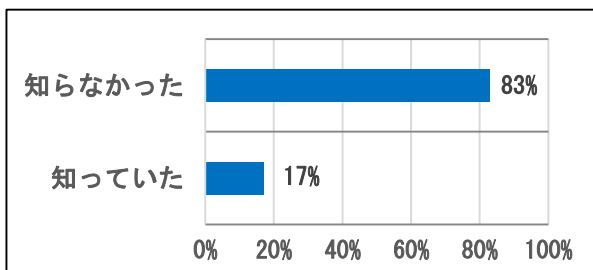
アンケート結果

事業者の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（アンケート回収数：35事業者）

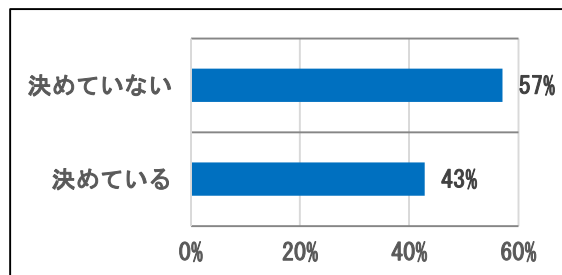
鹿児島市が作成したハザードマップを見たことがありますか。



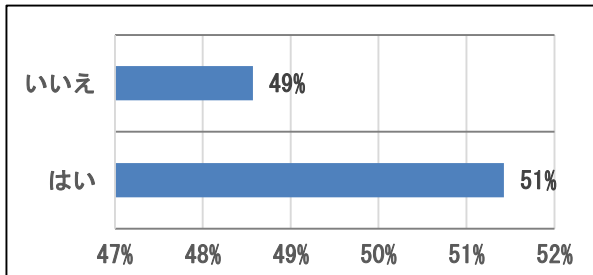
11月5日は「津波防災の日」であることを知っていますか。



災害時に家族皆外出していた場合、家族との「連絡手段」を決めていますか。



津波に対する自分なりの避難先を決めていましたか。



【自由回答欄】

（良好な点）

- 今回初めて参加させていただきました。
最近大きな災害が多いため、今回の経験はとても役に立つものになると思います。
貴重な訓練をありがとうございました。
- 津波訓練は初めてでしたが、避難にどれくらいかかるかなど、とても良い経験となりました。今後も訓練は必要と思う。毎年お願いしたい。
- 会社でも年一回避難訓練は実施している。
今回初めて参加しましたが、来年以降も参加したいと思います。
- 大変勉強になりました。有難うございました。

（改善を要する点）

- もっと近くに逃げたいです。
- 参加人数が想像していたより少なかった。
- 動物と生活していると、その動物を置いて避難できるかと考えたら、置いてはいけないと思います。
- 防災無線が聞こえず、出発が遅くなったので改善が必要なのではと思います。